

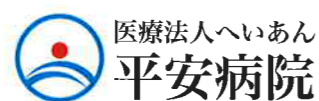
へいあん

春号
2011年



目次

あいさつ 理事長 平安明……P2	わたしの手……P6
東北地方太平洋沖地震 こころのケアチーム……P3	あゆみ会……P6
初代 平安院長の足跡 平安病院のあゆみ……P4	新人職員紹介……P7
	おきなわマラソン奮闘記……P7
	ちょっと聞いてみた。……P7



誓いの言葉

私たちは「心を病める人にへいあを」の基本理念のもとに

- ①療養者への貢献を第一義とし
- ②家族と共に、地域と共に
- ③より良い医療を提供するための努力を続けていきます。

診療科目

精神科 / 心療内科 / 内科

心の健康相談 / ストレスの相談 / 不眠の相談 / 児童、青年期の心の相談 / 心身症の相談 /
精神科デイ・ケア / 精神科デイ・ナイト・ケア / 精神科作業療法 / 精神医療相談 / 高次脳機能障害相談
老人性認知症の相談 / 理学療法 / 訪問看護 / 老人医療 / 介護相談

受付時間および診療時間のご案内

受付時間	月～金	午前 8:00～12:00	午後 13:00～17:00
	土曜日	午前 8:00～12:00	
診療時間	月～金	午前 9:00～12:30	午後 14:00～17:30
	土曜日	午前 9:00～12:30	
休日	土曜日午後・日曜日・祝日・8月1日（創立記念日）・年末年始は休診とさせていただきます。		
その他	初診の方や受診のご相談は医療相談係にてお話を聞きます。お気軽にご相談下さい。		

編集後記

広報誌委員、機関紙リユニオナルに向け何とか作成できた。これからが正念場ではありますが、親しみやすさ、わかりやすさ且つ時代に即した情報を発信していきたいと思ひます。

S・H

医療法人へいあん 平安病院

〒901-2111
沖縄県浦添市経塚346番地
TEL.098-877-6467 FAX.098-877-7320
<http://www.heian-hp.or.jp>
info@heian-hp.or.jp



周辺地図

精神障害者社会復帰施設
生活訓練施設
『経塚苑』

〒901-2111
沖縄県浦添市字経塚348
TEL:098-875-0818
FAX:098-877-7061
heian@ryucom.ne.jp

かもめクリニック

〒901-2111
沖縄県浦添市字経塚633
メディカルKプラザ3階
TEL:098-988-0326
FAX:098-988-0926

訪問看護ステーション
「ナース・ログ」

〒901-2111
沖縄県浦添市字経塚633
メディカルKプラザ3階
TEL:098-870-4789
FAX:098-870-4788

精神障害者社会復帰施設
通所授産施設

就労プラザ わく・わく

〒901-2114
沖縄県浦添市安波茶3-2-10
TEL:098-942-5200
FAX:098-942-5040
heian-wakuwaku@ii-okinawa.ne.jp

東北地方太平洋沖地震

沖縄県こころのケアチームのメンバーとして活動してきました。



東北地方太平洋沖地震 沖縄県こころのケアチーム

平安理事長 山城部長 赤嶺主任
喜屋武さん 高山さん

平安病院チーム出発式

(左から) 赤嶺洋司、山城秀光、平安明、高山輝大、喜屋武盛和

市、岩手県・大船渡市、浦(たこのうら)地区、綾里(りょうり)地区で活動を行っています。そして、4月18日(月)、こころのケアチームは7泊8日の活動を終え無事沖縄へ戻ってきました。チームの活動報告会

を院内にて開催いたしました。ここで、現地での活動に参加した山城総務部長の声を紹介します。「町中が泥と瓦礫に覆われ、いたる所に船と自動車が出た。被災にあわれた方から、家族を失ったこと、家を流された話などを伺い感情移入することも多かった。長距離の移動も重なり、考えている以上に体力の消耗は激しかったです。心身ともに疲れた一週間でしたが、被災者の方々のご苦労はそれをはるかに上回るものだと思います。一日でも早く東北地方の方々が元気を取り戻してほしいと願うばかりです。」こころのケアチームの活動報告を聞いて、被災地への支援は始まったばかりで、今後長期的、多方面からの支援が必要になってくることを実感させ

今回、沖縄県及び関係機関・団体において、精神医療・保健福祉関係者による「こころのケアチーム」を被災地へ派遣し、被災者の精神的健康の維持、向上に努めるとともに、被災地の復興を支援することになりました。4月5日(火)に、県立病院の医師、看護師、臨床心理士ら6人による第1陣のチームが7泊8日の日程で、岩手県大船渡市に向け出発しました。

第2陣では、民間医療機関のトップバッターとして平安病院から5名のスタッフが、心のケアチームとして現地での活動を行ってきました。当院からは、平安明理事長(医師・リーダー)、喜屋武盛和さん(看護師)、高山輝大さん(精神保健福祉士)、赤嶺洋司主任(臨床心理士)、山城秀光総務部長(事務)の5名が現地に派遣されました。4月11日から7泊8日の日程で、岩手県・大船渡市、浦(たこのうら)地区、綾里(りょうり)地区で活動を行っています。

「町中が泥と瓦礫に覆われ、いたる所に船と自動車が出た。被災にあわれた方から、家族を失ったこと、家を流された話などを伺い感情移入することも多かった。長距離の移動も重なり、考えている以上に体力の消耗は激しかったです。心身ともに疲れた一週間でしたが、被災者の方々のご苦労はそれをはるかに上回るものだと思います。一日でも早く東北地方の方々が元気を取り戻してほしいと願うばかりです。」こころのケアチームの活動報告を聞いて、被災地への支援は始まったばかりで、今後長期的、多方面からの支援が必要になってくることを実感させ

られました。私たちにできることも限られています。自分達にできることを少しでも被災地にいる方々の支援に役立てられたらと心から思いました。今年の5月中にも、当院からこころのケアチームを派遣する予定になっています。また、現地での活動状況を報告していきたいと思えます。最後に、こころのケアチームの皆さん、本当にお疲れ様でした。



こころのケアチームの活動報告会 (院内にて)

あいさつ



理事長 平安 明

平成23年3月11日14時26分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0という世界最大級の大地震が発生しました。地震そのものの激しい揺れの後、未曾有の大津波が三陸海岸を中心に東北地方の太平洋岸に襲いかかり、一瞬にして多くの町や村が壊滅してしまいました。日本でも有数の漁港や日本情緒にあふれた美しい風景が消えてしまったのです。

大津波は福島原発にも甚大な被害を及ぼし、原子力神話は人知を超えた災害の前にもろくも崩れ去り、結果的に放射能という目に見えない悪魔を撒き散らしてしまいました。

地震、津波で万単位の命が奪われ未だ行方不明の方も大勢います。また、帰る場所を失い避難生活を余儀なくされる人々も数十万単位に上ります。放射能の影響は今後どれだけの期間続くのか見当すらつきません。電力不足、断水、流通の断絶から様々な物資の不足が生じ、あらゆる意味で想定外のことが立て続けに起こりました。映画の設定ですらあり得ないようなことが現実になってしまったのです。

この未曾有の震災から何を学ばいいのでしょうか。この状況を日本人である我々が一致団結して乗り越えた後に振り返ることができるのかもしれませんが、いまはひたすらに被災された方々の復興に向けて全ての人々が出来ることをしていくしかありません。

広報委員の皆さんの尽力で「院内報へいあん」が形を変えて約5年ぶりに復活することです。私たちはこれからも「こころを病める人にへいあを」の基本理念のもとに医療に関わる仕事を続けていきます。しかしこれからは、被災地域への支援も欠かせない理念の一つとなりました。助け合い、支えあうことの大切さが問われています。

平成23年3月

初代院長 平安常敏



この度、機関紙の刷新にあたり、平安病院初代院長 平安常敏先生の足跡をご紹介します。よろしくお願いいたします。

青年時代

大正十五年 嘉手納村で生まれる。少年の頃は文学に携わる事を将来夢見ていたが、戦時下にあつては国を憂い陸軍予科士を開院された。

開院当初は職員の数も少なく、苦勞も多し中、和氣あいあいと職員と共に心を一つにして仕事に打ち込む。又、療養されているご家族の皆様や地域の皆様を盆踊り会、運動会等の行事にお招きした。クリスマスには常敏先生自らサンタの姿になり皆を楽しませるなど数々のエピソードも。「人の和を大切に」「健全なる精神は肉体に宿る」を心情に、精神病院に勤務されていた頃からバレーボールを通し療養者の皆さんや職員と共に汗を流す。昭和四十四年 沖縄県バレーボール協会副会長の要職も兼任される。

理想現実へ道半ば

開院後の昭和四十三年 ラジオ取材に際したるかたちで、こころの病について、又、投稿いただいたお手紙の質問にお答えするなど約三年間ラジオドクターとして携わる。他にも看護学校の講師、大学で心理学系の講師等を務める。毎日の診療、病院運営にと多忙極める傍ら、精神病院時代から研究に着手されていた論文をまとめられ、昭和四十六年三月 熊本大学より医学博士の学位が授与される事が決まり夫人を伴い上京。いよいよこれから自身の理想実現に邁進しようとした矢先 昭和四十六年三月十九日 四十五歳という若さで急逝された。病院開院から三年半足らず。労苦を共にし

官学校に入校。更に終戦を迎えるまで陸軍航空士官学校で学ばれる。帰郷後の昭和二十三年 沖縄の未来をになう若人の育成のため教師として教壇に立たれる。しかし、医療の貧しきを見るにつけ、郷土再建の医師として立つことを自らの使命として長崎医大に進学。昭和三十二年医師国家試験に合格。その当時、精神科の医師を目指す人は皆無にひとしい中、常敏先生は精神科医になる事を決意される。(戦後医学部を卒業した沖縄の医師の中では第二番目の精神科医であつた。)

精神科医としての出発

常敏先生は政府立琉球精神病院の勤務されたのを皮切りに、沖縄精神病院の初代院長として力を注がれる。特に昭和三十年代から四十年代前半、沖縄は米軍の統治下にあり県民はあらゆる面で不自由な生活を余儀なくされていた。特に医療面での立ち遅れは甚だしく、中でも精神衛生に対する施策は積極的ではなく、現実とは程遠いものであつた。このような厳しい現状を目の当たりにしながらも常敏先生は県内の在宅巡回診療を実施され、早期治療と精神衛生の啓蒙普及にも情熱をもって日夜励む日々であつた。

昭和四十一年沖縄における精神障がい者の実態調査において、他の都道府県に比べ病床数が絶対的に不足していることがわかる。

自ら浦添の経塚に

精神の障がい者並びにその家族の方へ、できた職員や療養者の方々、ご家族の悲痛、落胆はどれ程深いものであつたか。

継承

目の前に医療を必要としている方々に何としても応えなくてはと、故常敏先生の弟 平安常良先生が「大志」を受け継ぎ二代目の院長(現 名誉院長)に就任。幸子故常敏夫人が当時理事長(現 会長)として共に悲しむいとまさえなく必死に奔走する日々。紆余曲折を職員と一丸となり乗り越えられた。

後継の道

その後、平成九年故常敏先生の長男平安明医師が理事長職に就き初代の意思を受け継ぐ。平成十二年から当院に勤務されていた太田裕一医師が現在三代目の院長に就任。日々奮闘されている。

社会のニーズに対応するべく病院機能評価の認定を受け、高次脳機能障害拠点病院の認定、精神科救急の認定等当院の理念である「地域の方々からも信頼いただける病院」として邁進していきたい。

初代の功績

昭和四十七年三月 沖縄県バレーボール協会の皆様のご厚意により、故平安常敏先生に対する追悼バレーボール大会が平安病院に於いて開催された。翌年の昭和四十八年国民体育大会バレーボール競技県予選大会を「平安杯」として、県協会初めての冠(かむり)大会を創設いただき今日まで至る。

平安病院のあゆみ



昭和42年8月
開院



平成元年9月
精神科デイケア開始



平成11年4月
精神障害者社会復帰施設
生活訓練施設「経塚苑」開所



平成13年4月
かもめクリニック開設



平成15年6月
精神障害者社会復帰施設
通所授産施設「就労わくわく」開所



平成15年9月
訪問看護ステーション
「ナース・ログ」開所



平成19年11月1日
精神科救急病棟(精救)
第2号 承認



平成21年11月
かもめクリニック・ナースログ
メディカルKプラザ3階へ移転

地域との交流



初代院長
運動会



バレーボール大会



平安杯



盆踊り



盆踊り



わくわく祭



浦添市フリーマーケット出店



ふれあい祭り

新人職員紹介



【氏名】外間 陽一
【職種】作業療法室(補助者)
【コメント】2月から作業療法室に配属になりました外間陽一です。初めての病院勤めで右も左もわかりませんが、一生懸命頑張ってお役に立てるように頑張りますので宜しくお願いします。



【氏名】高良 園枝
【職種】看護師
【コメント】2月より南2階配属になりました看護師の高良園枝と申します。南2病棟はとても明るく和やかな雰囲気の中で楽しく働いています。まだまだ不慣れな面でも戸惑うことも多々ありますが、どうぞご指導の程宜しくお願いします。

ちょっと聞いてみた。
 P.N 佐々次田



知っていると思っていても、意外な思い込みで間違った方法をしていることが有ります。先生や理学療法士の意見を聞いて正しく行いましょう。



おきなわマラソン 奮闘記

去った2月20日の日曜日、あいにくの天気の中でしたが病院職員、13名がおきなわマラソンに参加しました。みんな忙しい中練習に励み、当日は治道の皆さんの応援に助けられ、殆どの方が完走しました。これを機に各病棟にも輪が広がり、走友会が立ち上がる源になれば良いですね...

わたしの手

このページは患者さんの日々の生活、作品、思い、声を紹介するページです。

今回は壁画作品の紹介です。今年の干支「うさぎ」をモチーフにしています。材料は「花紙」運動会などで飾られている赤や白い花。あの紙を使用しています。



行程① 花紙を小さくカットします。



行程② カットした花紙をくしゅくしゅとまるめます。



行程③ まるめた花紙を貼りつけます。

単純で何も難しい技術のいらない作業。それが積み重なって大作が出来上がる。人の輪に入るのが苦手...何かに集中して取り組むのが難しい...そんなことをこの作業は少しずつ自然に回復させてくれます。

院内家族会

あゆみ会



当院では通院患者様・入院患者様のご家族を対象に月に1回「癒しあい、分かち合いの場」として院内家族会「あゆみ会」を開催しております。

「あゆみ会」は平成元年4月に結成され、今年で23年目を迎えます。「同じ病者を抱える家族が病気をどうとらえるかを学んだり、家族の役割と病者への接し方を話し合ったりお互いに手を取り合っていくために遠慮なく集いあえる場とする。」を結成当初からの理念とし開催しております。スタッフは臨床心理士、精神保健福祉士を中心に開催しており、参加されるご家族は10家族(10~15名)前後が足を運んでいただいております。

内容は前半の1時間は事前にご家族から伺っているご希望を参考に情報提供(勉強会)を行い、後半の1時間はご家族を中心に日頃困っていることや聞きたいことなどを自由に話す場としていきます。今後も多くのご家族にお越しいただきたいと考えておりますので、お気軽にご参加下さい。※当院への通院、入院されている患者様のご家族が対象になりますのでご了承下さい。

毎月第4金曜日 14時~16時
 場所:当院南館3階 会議室

参加費無料で申し込みの必要はございません。

ご不明な点がございましたらお気軽にご連絡下さい。なお、ご希望があれば毎月開催案内を郵送できますのでお問い合わせ下さい。

問い合わせ:医療相談室 あゆみ会担当まで
 電話:878-6467